２０２４年度
トランポリン
バッジテスト・シャトルゲーム会
開催マニュアル

（開催にあたって必読）

２０２４年４月
公益財団法人日本体操協会

バッジテスト・シャトルゲーム会について

§1. 開催手順のあらまし
§2. 開催要項(マニュアル)
§3. バッジテスト実施規定
§4. 流れ図
§5. シャトルゲーム実施規定
§6. シャトルゲームトーナメント表
§7. バッジテスト･シャトルゲーム会内規

§１． バッジテスト・シャトルゲーム会開催手順のあらまし

バッジテスト会を開催するためには、最初に「バッジテスト練習記録帳」を日本体操協会ホームページから購入し、それに添って子ども達にバッジテストの種目を練習させなければなりません。

子ども達が、〇級を受ける状況になったら、初めてバッジテスト会の開催となるわけです。

１， バッジテスト会開催要項（マニュアル）に則リ、『開催要項』を作成する。

開催についての詳細は、§3. バッジテスト実施規定及び§7. バッジテスト･シャトルゲーム会内規を参照のこと。

※ 参加料：マニュアルにある受検料と認定料のほかに別途費用を加算することはできません。バッジテスト・シャトルゲーム会は、(公財)日本体操協会主催の検定事業です。

２， 『開催申請書』を日本体操協会ホームページよりダウンロードし、『開催要項』と共に、『開催申請書』(Excel形式のままで)をバッジテスト係宛、メール添付にて開催予定日の１ヵ月前までには開催申請をする。

３， 開催申請するとトランポリン委員会にて審査・承認処理を実施いたします。『開催要項』に不備が無ければ承認され、事業ナンバーが交付されます。

４， 承認後、『開催要項』を傘下クラブ･教室に配布し、参加申し込みを受ける。

５， バッジテスト・シャトルゲーム会終了後、**１週間以内に開催報告・認定料振込みをする。但し、年末・年度末開催の場合は、翌日中に開催報告・認定料振込みを済ませる。**

『開催報告書』をダウンロードし、報告書を作成。認定料（１０００円×合格人数）を（公財）日本体操協会へ振込み、『判定記録用紙』（提出用：Excel形式またはPDF形式）を『開催報告書』(Excel形式のままで)と共にトランポリンバッジテスト係宛てメール添付にて報告してください。入金確認後にバッジと合格証・シャトルゲーム参加証明書・シャトルゲーム卒業証明書が主管者宛に送られてきます。主管者は、そのバッジと合格証・シャトルゲーム参加証明書・シャトルゲーム卒業証明書を各クラブ・教室の指導者を通して認定者（バッジテスト合格者）とシャトルゲーム参加者に渡し、全てが終了します。

６，このバッジテスト・シャトルゲーム会は（公財）日本体操協会主催の検定事業です。開催承認を受けず（事業ナンバーの交付を受けず）にバッジテスト・シャトルゲーム会を開催されても、その開催を認めません。正規開催マニュアルを厳守し、あらためて開催してください。

※ 日程変更・中止の場合は、早期開催・延期または中止が決まった時点でバッジテスト係までメールで必ず連絡してください。
① 事業№、②開催日、③申請団体名、④担当者名、⑤日程変更・中止の理由
⑥開催予定日（わかる場合のみ）
なお、開催月・申請者・開催場所の何れかが変わる場合は、あらためて申請書と開催要項の提出をお願いします。

※ 開催奨励金として１認定料１０００円に対し、２００円が主管団体所属の都道府県協会トランポリン部署に支払われます。

※ 認定料は、５級～１級　全級１０００円です。

※ 認定料には、級認定料・バッジ代・合格証・消費税が含まれています。

※ 下記の場合は、次回の開催について承認できない場合があります。ご注意ください。

①開催申請期日を守れなかった（１か月前までの申請）
②開催報告期日に間に合わなかった（１週間以内の開催報告。年末・年度末は翌日中に）
③認定料が期日以内に振り込まれなかった（1 週間以内。年末・年度末は翌日中に）
④全般的にルールを守れなかった団体

※ 開催報告を受領し、認定料入金確認後、バッジ等を発送いたします。夏季、年末、年度末は10日から2週間程度かかる場合もありますので、ご承知おきください。尚、バッジ等到着後すぐに開封、確認をお願いします。到着後1週間以上を経過してからの破損等による交換などは致しかねます。

※ 年度末については、特別に期限を設定させていただく場合がありますので、ホームページにてご確認ください。

※ 新型コロナ感染症は、5類に移行されましたので、バッジテスト・シャトルゲーム会は、実施規定に則り開催すること。そして判定員も、受検対象地区以外の普及指導員あるいはコーチ有資格者にお願いし、開催するようにしてください。判定記録用紙に入力された判定員の資格登録なども確認させて頂きます。また、判定員の人数に関しては、§７．バッジテスト・シャトルゲーム会内規をご確認ください。

＜申請先／資料送付先＞　（公財）日本体操協会
トランポリンバッジテスト係　tr-badge@jpn-gym.or.jp

§２．開催要項（マニュアル）

○○バッジテスト・シャトルゲーム会
開催要項

1, 主　　催　　公益財団法人日本体操協会

2, 主　　管　　○○○○

3, 日　　時　　○○○○年○○月○○日(○)　　○○時　～

4, 場　　所　　○○○体育館

5, 日　　程　　５級･４級　　○○時　受付開始

３級･２級･１級　　○○時　受付開始

シャトルゲーム　　○○時　受付開始

6, 参 加 料　　◎５級・４級　　受検料　１，０００円

認定料　１，０００円（不合格の場合、当日返金されます。）

◎３級・２級・１級　受検料　１，５００円

認定料　１，０００円（不合格の場合、当日返金されます。）

◎前回のバッジテスト受検時、ボール検定不合格の者

ボール検定のみ　受検料　５００円

認定料　１，０００円（不合格の場合、当日返金されます。）

◎シャトルゲーム　参加料　１，０００円

7, 参加規定

①バッジテストは、５級から順に受けなければならない。但し、１回のテスト会で合格することによって、３階級受検する事ができる。

②受検者は、本会の練習記録帳を必ず持参すること。（当日忘れた場合、会場で購入。）

③シャトルゲームは、１級合格者のみ参加できる。但し、そのテスト会での１級合格者は次回からの参加となる。

④３級・２級・１級のボール検定は、３級・２級・１級それぞれのバッジテスト種目を合格した者が受検できる。

8, 申し込み期限　　○○月○○日(○)

9, 申し込み方法　　所属クラブ・教室名、氏名、受検の級及びシャトルゲーム参加回数を記入のうえ、下記まで申し込むこと。(Fax・メール受付可)

申し込み先

〒

TEL

§３．バッジテスト実施規定

開催条件①開催担当者；日本体操協会公認トランポリン普及指導員資格またはコーチ資格を有し、開催年度の普及指導員資格またはコーチ資格登録を完了した者。

②受検者数；10名以上とする。

用　　具①ラージ、又はミドルサイズ･トランポリン、メッシュベット１台以上

②提示用得点板　　１～５点

③合格・不合格提示版（ボール検定用）

④判定記録用紙

⑤本会バッジテスト練習記録帳(予備)

実施役員①一試技台につき主任判定員１名、副判定員１名、補助役員数名（受付係･受検者係）。

②判定員；原則として、受検対象地区外の日本体操協会　開催年度資格登録を完了した普及指導員またはコーチ。判定員の人数は、受検者数により決定する。

③主任判定員；「はじめ」の合図で試技を開始させ、副判定員と協議の上、得点を提示。練習記録帳に合格印を押し、練習記録帳返却。不合格者には認定料を返金する。

④副判定員；主任判定員と得点を協議し、得点を判定記録用紙に記録する。

⑤受付係；参加料の徴収及び練習記録帳持参の確認と班別を行う。不合格者に返金する認定料の準備をする。

⑥受検者係；受検者の誘導、練習の指示、コール等テスト全般の流れをはかる。又、練習前に練習記録帳を集め、試技の際に主任判定員に渡す。

実施方法①５級から順に受けなければならない。但し、１回のテスト会で合格することにより３階級受検することができる。

②受け付け順に８～１３名の小グループ(班)に分け、班ごとにテストを実施する。

③班ごとに練習台で、練習数回。

④班ごとに試技台で、練習１回。

⑤班ごとに試技台で、試技１回。

⑥試技が失敗した場合、もう１度試技することができる。（復行１回）

⑦復行は、その班の試技終了後直ちに行なう。

⑧実施方法は、バッジテスト会流れ図の通りとする。

採点方法①採点は、主任判定員及び副判定員がリズム・バランス・大きさ（高さ）を考慮し５点法で行う。

②５点…演技を非常に上手に続行できた。

４点…演技を上手に続行できた。

３点…演技を続行できた。

２点…１回の中断等、大過失があった。

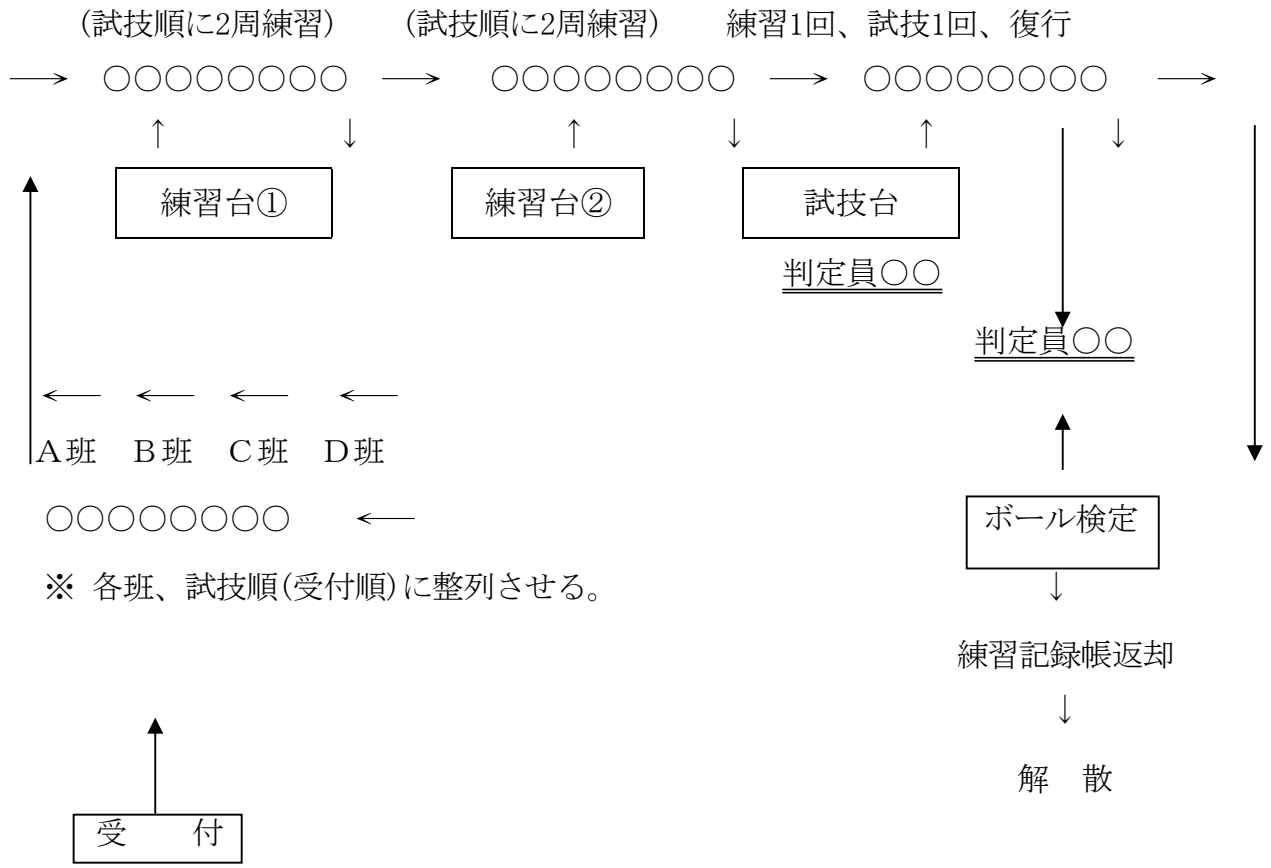
１点…２回以上の中断等、大過失があった。

合格判定①バッジテスト種目；得点３点以上を合格とする。

②ボール・トレーニング；３回の実行中、１回以上成功したら合格とする。（ボール検定）

※運営に関する詳細は、バッジテスト･シャトルゲーム会内規により、別に定める。

§４．バッジテスト会流れ図



※ 各班、試技順(受付順)に整列させる。

※参加料の徴収。班分け。

※練習記録帳の持参確認。

※３台使用の場合は、練習台２台で各２周。試技台で１回練習、試技１回。すなわち、５回練習して試技１回となる。

※２台使用の場合は、練習台１台で２周練習、試技台で１回練習、試技１回。すなわち、３回練習して試技１回となる。

※１台使用の場合は、試技台で２周練習、間を空けて試技台で１回練習、試技１回。すなわち、３回練習して試技１回となる。

※ボール検定は、３級・２級・１級　バッジテスト種目を合格した者のみ受検できる。

§５．シャトルゲーム実施規定

シャトルゲームは、スポーツの素養づくり子どものトランポリン運動の成果の発表の場として設定されたゲームである。普及指導員が行なうシャトルを『シャトル競技』と呼び区別する。

開催条件　① シャトルゲーム会は、バッジテスト会に付随して行なわれる。従ってシャトルゲーム会のみ単独で開催することは出来ない。

② ５名以上の参加者を必要とする。

用　　具　① ラージ、又はミドルサイズ・トランポリン、メッシュベット１台以上

② 得点用リストバンド　　赤１点～５点・青１点～５点

③ 抽選用具

④ シャトルゲーム参加証明書･卒業証明書

⑤ バッジテスト練習記録帳(予備)

実施役員　① １トーナメント（30名以内のトーナメント対戦数）に１名の大人の後見人。

② 受付は、バッジテストの受付係が行なう。

③ 抽選は、後見人が行なう。

実施方法　① シャトルゲームは、３～５名の参加者がジャンケンで順番を決め、１番の者が何か１種目を行なう。次の者が、その１種目に何か１種目を加える。次の者が、またその２種目に１種目加える。と言うように、どんどん種目数が増えていく。その連続運動を間違えたり、忘れたりしたら負けとなり、ゲームから外される。最後に残った者が、１番勝ちと言ったゲームである。

② 参加者が３０名を越す場合、３０名以内の班分けをし、班毎にトーナメント形式によりその班の勝者を決める。

(例)参加者３１名の場合･･･ 1班15名 2班16名（２トーナメント）

参加者７６名の場合･･･ 1班25名 2班25名 3班26名（３０名以内の均等班分け、３トーナメント）

③ トーナメントの組み方、対戦数、各予選の通過者数は参加人数によって異なり別表の通りとする。

④ 審判は、対戦者同志で行い、大人の後見人一名がそれを監督する。

⑤ 第一次予選は、２回の対戦からなり、２回の得点合計により予選通過者を選ぶ。

⑥ シャトルゲームの使用種目は、バッジテスト５級～１級までの種目（３５種目）とする。

⑦ 第１次予選は、ジャンケンにより第１回目の対戦の試技順を決める。

その試技順通りにシャトルを行い、失敗した者が順に抜けていき、最後に残った者が１位となり、各々に第１回目の得点が与えられる。（１回目の得点は、得点用リストバンド赤１点～５点を与え、各々の手首に付けさせる。）

第２回目の対戦は、第１回目の逆の試技順で行い、同じく第２回目の得点が各々に与えられる。（２回目の得点は、得点用リストバンド青１点～５点を与え、各々の手首に付けさせる）第１回目と第２回目の得点の合計により、別記トーナメント表に定めたとおりの第１次予選通過者が決定される。

⑧ 得点は対戦者数により異なり、５名による対戦の場合、１位が５点～５位が１点。４名の場合、１位が４点～４位が１点。３名の場合、１位が３点～３位が１点とする。

⑨ 予選通過ラインに同点者がでた場合、その者のみ再度対戦し、予選通過者を決定する。同点者が２名の場合は、３分間の対戦（ツウ・バウンスあり）で大人の後見人１名が判定する。

⑩ 第２次・第３次…予選は別記トーナメント表に定めたとおりのグループに分けて、ジャンケンにより試技順を決めて１回の対戦で１～２名の予選通過者を決定していく。

⑪ 決勝は４名（必要に応じて５名）で行う。

⑫ ゲームは、１跳躍種目ずつ進み、シャトル競技のような「ツウ・バウンス」は無しとする。

⑬ 公式のシャトルゲーム会に参加した場合、順位によるメダル、賞状等は与えず、１回目、２回目参加の場合は参加証明書、３回目参加の場合は卒業証明書を与える。

⑭ 上記規則以外は、原則としてシャトル競技規則に準ずる。

※運営に関する詳細は、バッジテスト・シャトルゲーム会内規に準ずる。

§６．シャトルゲームトーナメント

参加者数	第一次予選グループ分け（　）内は予選通過者数	総試合数
５	予選無し、２回の対戦で順位決定	２
６	３（２）　３（２）　４名で決勝	５
７	３（２）　４（２）　〃	５
８	４（２）　４（２）　〃	５
９	４（２）　５（２）　〃	５
１０	５（２）　５（２）　〃	５
１１	３（１）　４（２）　４（２）　５名で決勝	７
１２	３（１）　３（１）　３（１）　３（１）　４名で決勝	９
１３	３（１）　５（２）　５（２）　５名で決勝	７
１４	４（１）　５（２）　５（２）　〃	７
１５	３（１）　４（２）　４（２）　４（２）　４名で決勝	１１
１６	４（２）　４（２）　４（２）　４（２）　〃	１１
１７	４（２）　４（２）　４（２）　５（２）　〃	１１
１８	４（２）　４（２）　５（２）　５（２）　〃	１１
１９	４（２）　５（２）　５（２）　５（２）　〃	１１
２０	５（２）　５（２）　５（２）　５（２）　〃	１１
２１	４（２）　４（２）　４（２）　４（２）　５（２）　〃	１３
２２	４（２）　４（２）　４（２）　５（２）　５（２）　〃	１３
２３	４（２）　４（２）　５（２）　５（２）　５（２）　〃	１３
２４	４（２）　５（２）　５（２）　５（２）　５（２）　〃	１３
２５	５（２）　５（２）　５（２）　５（２）　５（２）　〃	１３
２６	３（１）　３（１）　５（２）　５（２）　５（２）　５（２）　〃	１５
２７	４（２）　４（２）　４（２）　５（２）　５（２）　５（２）　〃	１７
２８	４（２）　４（２）　５（２）　５（２）　５（２）　５（２）　〃	１７
２９	４（２）　５（２）　５（２）　５（２）　５（２）　５（２）　〃	１７
３０	５（２）　５（２）　５（２）　５（２）　５（２）　５（２）　〃	１７

§７. バッジテスト・シャトルゲーム会　内規

１,１０名～１００名以内の受検者の場合、判定員２名配置する。

２,１０１名以上の受検者の場合、１～１００名増員するごとに、２名の判定員を配置する。但し、その増員の計算は一度に２階級、３階級受検を希望する者も１名とみなす。

３,同一級の受検者が１００名を越した場合、その全員を同一判定員が判定しなくても良いとし、各判定員の判定人数の平均化を配慮すること。

４,判定員は、原則として１日に１０１名以上の判定を行なわない事とし、判定員の指名及び構成は主管で行なう。

(判定員構成の例)

①５級15名、４級20名、３級21名、２級25名、１級20名　合計101名の場合

	受検者数	班別人数	判定員
５級	１５名	５６名	２名（１組）
４級	２０名		
３級	２１名		
２級	２５名	４５名	２名(1組)
１級	２０名		
合計	１０１名	１０１名	４名(2組)

判定員の人数計算

101名÷100名=1.01 … 2組(計4名)

判定員１組あたりの判定人数

101名÷2組=50.5 … 50名前後に班別

②５級130名、４級110名、３級110名、２級40名、１級40名、合計430名の場合

	受検者数	班別人数	判定員
５級	１３０名	９０名	２名（１組）
		４０名	２名（１組）
４級	１１０名	５０名	
		６０名	２名（１組）
３級	１１０名	２０名	
		９０名	２名(1組)
２級	４０名	８０名	２名（１組）
１級	４０名		
合計	４３０名	４３０名	１０名（５組）

判定員の人数計算

430名÷100名=4.3 … 5組(計10名)

判定員１組あたりの判定人数

430名÷5組=86　… 86名前後に班分け

５,判定員は､原則として受検対象地区以外の日本体操協会公認トランポリン普及指導員資格またはコーチ資格を有し、開催年度の普及指導員資格またはコーチ資格登録を完了した者に依頼すること。

６,判定員の服装は､原則として紺色のブレザーにネクタイとする｡(男女共通)

７,判定員は練習記録帳の合格欄に捺印する合格印(本会指定のもの)を原則として購入･持参すること｡(本会指定の合格印は日本体操協会ホームページから購入すること)

８,補助役員は､地元関係者をあてる｡補助役員数及びその謝金は､主管団体の裁量に任す。

９,判定員の謝金は３０００円とし､交通実費及び必要に応じて食事を支給する。

10,１階級のみの受検,あるいは複数級受検する場合も、参加料（受検料・認定料）は、各級受検受付ごとに徴収する。

11,認定料（級認定料・バッジ代・合格証・消費税を含む）は（公財）日本体操協会に入金されるが、後日、１認定料つき２００円が主管団体所属の都道府県協会トランポリン部署に分配される。

12,受検料１０００円（５・４級）１５００円（３・２・１級）及びシャトルゲーム参加料１０００円は、主管団体に入り開催実費として支出され、余剰金は主管団体の収入となる。

13,最小限の受検者の場合の支出例

１０名の場合	（収入）	受検料	1,000円×10名=10,000円
	（支出）	判定員謝金	3,000円×2名+交通費500円×2名
		補助役員謝金	3,000円×1名
		合　計	10,000円

14,開催経費が受検料収入を上廻る場合、主管団体が負担する。

15,主管団体から発送される通信経費、本会から発送する認定バッジ等の送料は、主管団体負担とする。

(2024/3/1版)